

研究テーマ： 子どもの学力形成を保障する自然体験学習の地域プログラムの開発	
研究代表者（職氏名）： 准教授 藤井浩樹	連絡先（E-mail 等）： 県立広島大学人間文化学部 E-mail hfujii@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者（職氏名）： 准教授 市川洋子（県立広島大学生命環境学部） 指導主事 小柳哲雄（世羅町教育委員会） 技師 猪谷信忠（せら県民公園） 技師 坂本 充（広島市森林公園昆虫館） 指導主事 山本浩史（広島県立教育センター） 指導主事 高田尚志（広島市教育センター）	

1. 研究目的

本研究の目的は、子どもの学力形成を保障する自然体験学習の地域プログラム（授業モデル）を、本学と世羅町教育委員会及び世羅町小・中学校の連携によって開発することである。具体的には、次の3点を実施する。

（1）自然体験学習のプログラムの開発

2008年4月に開園した「せら県民公園自然観察園」は世羅台地の自然湿地を再現しており、自然体験学習の場に相応しい優れたフィールドである。このフィールドを活用して、世羅町の小・中学校に共通のプログラムを開発する。また、開発したプログラムと関係づけて、学校周辺の自然環境を生かした、各学校独自のプログラムも開発する。これらの開発では、児童・生徒の学力形成に効果があると考えられる自然体験学習の内容や指導法の要素を組み込む。

（2）自然体験学習のプログラムの試行と評価

開発したプログラムを世羅町の小・中学校において試行的に実施する。児童・生徒の学習到達度を把握し、開発したプログラムの有効性と問題点を検討する。

（3）自然体験学習のプログラムの提示

(1)と(2)で得られた研究成果を総合的に評価・検証し、子どもの学力形成を保障する自然体験学習の地域プログラムを提示する。これを「せらの豊かな自然体験学習」(仮題)という報告書にまとめ、県内外の教育界に情報を発信する。

2. 平成20年度の研究成果の概要

2年間計画の1年目にあたる平成20年度は、世羅町の自然環境を生かして、児童・生徒の学力形成を保障する自然体験学習の地域プログラム（授業モデル）を開発することが目的であった。

そこで、地域課題解決研究の課題提案者である世羅町教育委員会と、本学（人間文化学部、並びに生命環境学部）、せら県民公園、広島市森林公園昆虫館、広島県立教育センター、広島市教育センターの6者の連携のもとで研究を進めた。その結果、次の3点を達成した。

（1）自然体験学習のプログラムの開発

自然体験学習に使用するワークシート（案）を作成した。内容は、秋の自然体験学習に用いる「トンボ」(図1)、「秋の植物遊び」、「見つけてみよう！秋の七草&畦の七草」、並びに春の自然体験学習に用いる「カエルの生活史・産卵から生態まで」(図2)、「トンボの成虫の比較分類」、「ため池の植物～コウホネ類の見分け方～」、「春の草花遊び」(図3)である。また、ワークシートを用いて行う授業モデルの内容構成と学習指導法について検討した。

（2）自然体験学習の学習会の開催

せら県民公園自然観察園において、世羅町内小・中学校教師を対象に、自然体験学習の学習会（自然観察会も含む）を開催した（平成20年10月31日、参加者46名）。秋の自然体験学習に用いるワークシート（案）を実際に教師に使用してもらうことで、その有効性や問題点を明らかにした。また、学習会の講師として、浜本奈鼓氏（環境教育NPOくすの木自然館理事）を招聘し、自然体験学習を



図1 ワークシート案(「トンボ」の一部、指導者用)

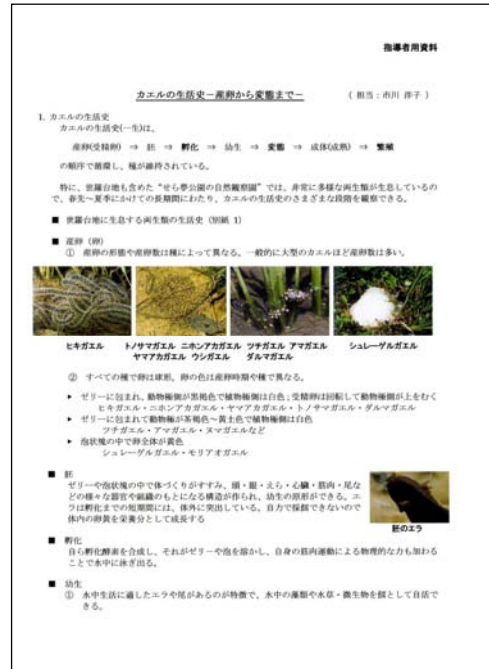


図2 ワークシート案(「カエルの生活史」の一部、指導者用)



図3 ワークシート案(「春の草花遊び」低学年児童用)

進める上での基本的な考え方について講話をいただいた。

(3) 自然体験学習のプログラムに対する外部評価
学習会の講師として招聘した浜本氏から、ワークシート(案)及び授業モデルの内容構成と学習指導法について評価を受け、それらの有効性や問題点を明らかにした。

3. 平成20年度の研究成果の発表

(1) 著書・論文

藤井浩樹監修、広島県世羅町立西大田小学校編著、『知識を活用する力を育てる授業づくり・実生活とつながる理科・生活科・生活単元学習』、東洋館出版社、2009。(印刷中)

藤井浩樹、溝邊和成、「自然体験学習の授業づくりと教師の成長・自然史系博物館職員と連携した授業づくりの事例の検討」、『自然体験学習実践研究、査読有、1(2)、37-49、2009。

降旗信一、宮野純次、能條歩、藤井浩樹、「環境教育としての自然体験学習の課題と展望」、『環境教育、査読有、19(1)、3-16、2009。

(2) 学会発表

FUJII, Hiroki, Teacher Education Program of Science based on Class- Making: A Case Study of Class-Making that Elementary School Teacher cooperated with Science Museum Staff, 10th International Conference on Public Communication of Science and Technology, Malmö University (Malmö, Sweden), Jun. 2008.